

研究ノート

参加型学習（ワークショップ）の
評価に関する研究

— 学部専門教育における手法導入の可能性と課題 —

西 川 芳 昭¹⁾
佐 藤 剛 史²⁾

1. はじめに

2002年8月のヨハネスブルグサミットにおいて、2005年からの10年間を「持続可能な開発のための教育」の10年とすることが、日本のNGOと政府の共同提案によって実施文書に盛り込まれ、12月に国連の決議を得た。日本では、この運動は環境教育の関係者を中心に具体的な事業が検討されているが、地域における意義付けの議論も活発になってきている（山西 2004）。

わが国の開発教育を先導してきたNPO法人開発教育協会は、開発教育について「私たち一人一人が、開発をめぐる様々な問題を理解し、望ましい開発のあり方を考え、公正な地球社会づくりに参加する事をねらいとした教育活動である。」と定義している。一方、教師が生徒に、リーダーがメンバーに一方向的に知識や技術を伝達するトップダウン型の教育に対して、メンバーが自分で事実を認識し、考え、意見を表明・交換し、行動を決定していく参加型の教育が開発教育であるという考え方もある。1975年に出された国連情報委員会の文書によれば、開発教

1) 久留米大学経済学部

2) 九州大学大学院農学研究院

育とは「人々がそれぞれの地域社会，国そして世界の開発に参加できるようにする」ことが目標であり「地域社会や国，国際社会の状況を，それぞれの社会的，経済的，政治的手続きを理解した上で批判的に自覚する」ことが含まれるとされている（大津 1995）。人間一人一人が持つ内在的な能力やコミュニティーが持つ潜在能力を引き出すファシリテーターの育成も開発教育の範疇に含まれる。

ブラジルの識字学者パウロ・フレイレは，教育者が学習者を空っぽの器とみなして一方的に知識の伝達を行う「銀行型教育」に対して，教育者と学習者の両方が学びあう「伝え合い」「問題提起型教育」を提起している。学習者と教育者の対話のプロセスを通じて，自分と他者や現実世界との関係性を認識し意識化する力を獲得しながら，自らや世界との関係を変革していく自己解放と，相互理解の実践が実現される可能性がある（吉野 2005）。

情報量の飛躍的増大と社会変化の加速化により，学問の成果としての知識の伝達や社会規範の継承よりも，情報の収集，選択，活用の方法や，激動する社会の対応の方法を修得することの必要性が認識されつつある。知識は授業者から学習者に与えられるだけでなく，授業者の援助を得ながら学習者自身の諸活動を通じて探求されるものであろう。

ワークショップのような参加型学習は，社会の多様な場面で活用されており，中野（2001）はこれらをアート系，まちづくり系，社会変革系，自然・環境系，教育・学習系，精神世界系，統合系などに分類している。このようなワークショップが，もし，方法論およびプロセスを重視しすぎるあまりに内容の軽視につながっては教育の成果が疑問視され，特に大学教育を論ずる場合にはこの点に留意する必要があると考えられる。

このような背景を踏まえ，本稿では久留米大学経済学部の専門科目の講義で試行した参加型学習の結果を分析し，その可能性と問題点を探ることとしたい。

2. 研究の方法

筆者(西川)が久留米大学で開講している経済学部専門科目の「地域文化開発論」の時間を利用して、同じテーマの内容を講義形式で受講した学生とワークショップ形式で受講した学生のふりかえりを分析することによって学習方法の違いによる学生の知識習得と行動意欲に対する影響を明らかにすることとした。「地域文化開発論」のシラバスに記載している講義の目標は資料1の通りであるが、単なる知識の習得のみならず態度の形成も視野に入れているところに特色があり、この実験もその目的達成の一つの手法として実施された。

資料1 「地域文化開発論」平成16年度シラバスによる講義の目的

古来人間は環境に働きかけ自らの住む地域の開発を行ってきた。一方で、技術の高度化や資本の巨大化を通じて経済開発を行うことによって近代化が推進され現代の工業化社会が到来した。このような中で人間の身の丈を越え人間らしさの活動とは切り離された開発に疑問を持ち地域問題に取り組む人々が増えている。開発の主体を行政とゼネコンの専売から取り戻そうという運動が各地で芽生え、工業化・近代化を通して失った地域の本当の豊かさを見直す新しい開発である地域興しが盛んに行われている。

地域開発を自らの問題と捉え、参加・行動につなげていくことは現代に生きるすべての市民に問われている課題である。しかしながら、自分の居住地の問題に関わる場合(ローカル)は当然であるが、地球規模の問題に関わる場合(グローバル)にも、地域の文化に対する理解がなければ、ひと時代前の普遍的近代化論の適用に終わってしまう。

本講義では、地域に内在している固有文化を地域住民が認識し、現代社会の枠組みの中で再構成し、地域内外へ情報発信していくことが地域文化開発であるという立場にたって議論する。さらに、文化と経済の相互作用をその主な分析対象とする文化経済学の視点から、地域の経済社会開発を評価し、さらには受講者がそのような開発行為に参画していく意志の形成と基礎的能力の習得とを目標とする。

(下線筆者)

具体的には、「地域文化開発論」受講学生を学籍番号の奇数と偶数に分け、筆者（佐藤）がその一方には講義形式の授業を行い、他方にはワークショップ形式の授業を行った。それぞれの授業の進め方は資料2のとおりである。

資料2. 実験の概要

実験授業：講義編

日時：2004/11/11 14:40-16:10

場所：久留米大学 622 講義室

受講者38名（学籍番号奇数）

講義テーマ：「食をみつめなおす—その先にあるモノ—」

プログラム：

14:40- イントロダクション

- ・今回の内容の知識はテストでは問わないことの確認
- ・途中退席を認めること

14:50- 資料配付「食卓の向こう側」コピー

各自で読む

数名に感想を答えさせる（堅い雰囲気です）

15:15- 講義（板書形式）

- ・食→健康
- ・食→環境
- ・農業の意味

15:50- 振り返りシートの記入・回収（無記名）

- 授業で記憶に残った内容（箇条書きで5つまで）
- 今年中に具体的に実行してみたいこと（もしあれば3つまで）
- 講義の感想

16:00- 16:10まで個人的に自由に質問を受け付ける

- ・農業と生きものとの関係下敷きの販売（100円）

16:10 終了

実験授業：参加型学習編

日時：2004/11/18 14:40-16:10

場所：久留米大学622講義室

受講者32名（学籍番号偶数）

講義テーマ：「食をみつめなおす—その先にあるモノ—」

プログラム：

- 14:40- アイスブレイク
- ・グループ作り
 - ・前のほうに座らせる
- 14:50- イントロダクション
- ・今回の内容の知識はテストでは問わないことの確認
 - ・授業のスケジュール確認
 - ・途中退席を認めること
- 14:55- 夕・朝・昼の食事確認
- ・シートの記入
 - ・グループ毎に見せ合う
 - ・感想を共有
- 15:15- 資料配付「食卓の向こう側」コピー
- 食の大切さについてグループディスカッション
- ・グループ毎に発表
- 15:40- 補足説明
- 15:50- 振り返りシートの記入・回収（無記名）
- 授業で記憶に残った内容（箇条書きで5つまで）
 - 今年中に具体的に実行してみたいこと（もしあれば3つまで）
 - 講義の感想
- 16:00- 16:10まで個人的に自由に質問を受け付ける
- ・農業と生きものとの関係下敷きの販売（100円）
- 16:10 終了

注：「食卓の向こう側」から抜粋したテーマは、「呆食 二十年後のあなたの夕食は」および「中食 ラベルを見えていますか」の2編である。

それぞれの講義終了時に、

- (1) 講義で記憶に残った内容は何ですか？（最大5項目）
- (2) 今年度中に具体的に実行したいことはありますか？（最大3項目）
- (3) 講義に関する全体的感想

の3項目についてふりかえり用紙に無記名で記入させた。また、授業終了時に資料の閲覧と授業に使用した資料の購入希望を募り、学生の行動を調べた。

3. 実験の結果

学生がふりかえり用紙に記入した内容は文末資料3にまとめた。

ここでは、実験をとおして得られたデータをもとにどのような仮説が立てられるかについて議論を進めたい。

表1. 授業後の学生の行動

	講義 38名	WS ³⁾ 32名
下敷きの購入	1	0
資料の閲覧	1	0

表2. 授業で記憶に残った内容

	講義 38名	WS 32名
合計回答数	148 (3.89) ⁴⁾	126 (4.06)
多面的機能に関するもの一般	19	16
多面的機能に関するもの(環境的側面)	58	34
多面的機能に関するもの(経済的側面)	14	13
健康に関するもの	38	43
財の性質に関わるもの	9	0
分類不能	10	20

表3. 今年度中に具体的に実行したいこと

	講義 38名	WS 32名
合計回答数	64 (1.68)	76 (2.45)
健康に関するもの	40	63
環境・地域に関するもの	19	7
その他	5	6

3) ワークショップ(参加型学習)

4) ()内は一人当たりの回答数。以下表2・表3同じ

表1には、授業終了後の受講者の行動をまとめた。講義形式の受講者の中で、1名が資料の下敷きの購入を行い、また1名が食に関する配布資料の閲覧に来た。参加型学習形式の受講者はいずれの行動も見られなかった。

表2には、知識として何が習得されたかをまとめた。

まず、回答数はワークショップ（平均4.06）が講義形式（平均3.89）よりも多い。しかしながら、内容を見ると、たとえば多面的機能の理解は講義形式の方が多し、また財の性質（例：公共財）についてはワークショップの受講者は一人も言及していない。また、ワークショップの受講者は記憶に残っていることに関してあいまいな表現が多い。

表3には、態度としてどのような行動が促されたかについてまとめた。

この場合も、回答数はワークショップ（平均2.45）が講義形式（平均1.68）よりも多く、その差は表2に示した知識の習得に関する質問よりも顕著である。内容としては、講義形式の受講生は環境・地域に関するものが多く、ワークショップの受講生は健康に関するものが多い。

自由意見では、以下のことが観察された。

講義形式の受講者に、「コンビニ弁当のこわさ」と「農業の多面的機能」の両方に触れているコメントがいくつかあることは、具体的事例を用いることによって必ずしも参加型学習の形式を用いなくても、個々の学生の能動的参加を促すことが可能であり、同時に社会のしくみに関する知識の習得も行われることを示唆している。「母が料理上手で栄養のバランスの取れた食事をしてきた」「環境と農業の関係は始めて考えた」というコメントも、新しく得た知識によってこれまでとはちがった物の見方ができる可能性を示唆している。ただ、これを各受講者の行動の促しにどうつなげるかが重要である。

「講師の先生はほんとうに田んぼが好きなんだな」「土地があるから田んぼを作ってきたけれど、これからは地域のことも考えていきたい」というコメントは、

教育者の側にどれだけの実体験と具体的な熱意があるかによって学生の意識の変化が見られる可能性を示唆しているのではないか。

「他の人と話したり、発表する場がおもしろかった」「みんなで話し合っただけ楽しい授業だった」「退屈しなかった」「中学・高校の授業のようで楽しかった」というコメントも散見された。重要なコメントであるが、先にも述べたように、このような手法に対する肯定的感想と、学習者の具体的な行動の変化がどう結びつくかを明らかにする必要がある。これに対しては「話し合うのは苦手だが、内容はおもしろかった」「多面的機能についてもっと詳しく聞きたかった」と具体的に知識の要求をしている感想もあった。

4. 実験結果から考えられること

当面構築できる仮説として、ワークショップ形式は、学生に問題を身近なものと感じてもらふ効果は大きいと考えられる。しかし、作業をした内容に大きく引き込まれてしまい、多面的機能や食の向こう側にある、地域や環境に関する論理的概念的思考には至りにくい。大学教育においてワークショップを利用する場合は戦略を十分に検討する必要があるかもしれない。いくつか明らかになった点を整理したい。

4-1. 提供情報量の差

テーマ、素材は同じではあるが、講義、ワークショップと、全く異なるスタイルの授業方式であったため、提供した情報量も大きな差が生じた。例えば、講義では、財の性質に関して、競争性と排除性の視点からの公共財と私有財との差異について、十分な解説を行った。また、農業の生物多様性保全機能に関して、水田と水路・河川の分断が、メダカやドジョウを絶滅に追いやっていることなどを、

身近な事例を交えながら説明した。ワークショップでは、農業の持つ多面的機能についてひと通りの解説は行なったが、個別の機能について詳しい解説の時間を充分には設けなかった。それゆえ、講義で記憶に残った内容に関して、「多面的機能の理解は講義の受講者の方が多い、財の性質（例：公共財）についてはワークショップの受講者は一人も言及していない。」という結果が生じることになったのは、ある程度、当然であろう。

4-2. 自分の頭で考え自分の言葉で表現することの意味

「講義で記憶に残った内容」「今年度中に具体的に実行したいこと」の回答数に関して、ワークショップのほうが講義よりも多かったことは特筆すべきである。ワークショップでは、グループディスカッションの時間を設けた。それは、自分の頭で考え自分の言葉で表現し、それを共有するきっかけと機会を提供したことに他ならない。

それゆえ、回答数自体は、ワークショップのほうが多くなったのであろう。ただし、「あいまいな表現がワークショップに多い」という観察も見られる。それは、学生が思いを表現できる言葉を獲得できていないからとも考えられる。講義の場合は、多くの言葉（専門用語や説明の方法）を提供できるが、しかし、ワークショップでは、それは難しい。その差がここに現れているのであろう。

専門的な知識の獲得を目指す大学の授業で、ワークショップ形式を導入する一つの難しさがここにある。ただし、学習者の具体的な行動の変化に結びつかない、思いのこもっていない言葉をレポートや感想文に並べることも、行動に繋がる知識と態度の習得目標とするならば問題ではある。

5. 考察と今後に向けて

以上の結果を踏まえて今後どのような議論をする必要があるかまとめてみたい。

5-1. 大学生が授業に求めるもの

今回の実験で意外だったのは、予想以上に「講義」の反応が良かったことである。手を動かし、グループで語り、成果をまとめ上げていくワークショップのほうがか一般的には楽しい。実際に身に付くものもワークショップのほうが多いとされる。環境教育や、開発教育、社会教育などの場で、ワークショップが導入されているのはそんな理由からだろう。

小・中学校では「先生が語るのが5分、生徒が語るのが45分」の授業が良い授業であるとされる⁵⁾。大学での講義も、その学びのスタイルの基本は同様であろうとの認識がどこかにあったが、予想以上に、大学生は、質の高い情報（講義）を求めている。「自分で考えるのも楽しいけれど、大学でしか得られない専門的な知識を学びたいよね」。そんな声が聞こえてきそうなほどであった。

講義を担当した佐藤の中でも、「学生同士の中途半端な知識でディスカッションするよりも、自分の知識と経験を注ぎ込んだ講義のほうが絶対に面白いはずだし、そうでなければならぬ。そうでなければ、つまり、ワークショップに負けてしまうような講義では、大学の教員の存在意義が問われる」という思いが芽生え、面白い講義を構築することに力を注いだ。

このような理由から、大学教育においてワークショップを導入する場合、大学という教育機関の意味や意義を十分に検討する必要があるだろう。（ただし、今回、学生が熱心に受講したのは、珍しい非常勤講師が講義を行ったから、という側面

5) 筆者（佐藤）の教育実習での体験より。

もあるだろう。) 中野 (2001) はワークショップ活用の目的を図のように分類しているが、大学教育においてワークショップを活用できる可能性は、社会、自然、環境等のことを体験し、学ぶだけではなく、社会の変革に参画する個人的な体験を促すことにあると考えられる。

	個人（内向き）	⇔	社会（外向き）
創造 (能動的)	I. 個人の内面を表現し、何かを創造する		II. 社会を変革する成果を出し、行動する。
学び (受動的)	IV. 個人の内面を深め、心と体を癒す		III. 社会、自然、環境等のことを体験し、学ぶ。

吉野 (2005) は、ワークショップとまちづくりを論じる中で、ワークショップの特色の一つとして、年齢やバックグラウンドのことなる参加者が、お互いに気づきを促し、社会との関係に気づいて行動につながることを指摘している。大学の場合、年齢もバックグラウンドも類似した集団であり、参加型学習を単純に導入しても「違いに気づく」ことが必ずしも実現されず、社会の実際との関係性への気づきを確保することも困難である。知識の伝授と、参加型学習の統合的活用の手法を見出す必要がある。

5-2. 大学教育においてワークショップを導入する場合の戦略

とはいえ、ワークショップも魅力的な手法である。前述のようにワークショップに参加した学生は、「他の人と話したり、発表する場がおもしろかった」「みんなまで話し合っ楽しい授業だった」「退屈しなかった」「中学・高校の授業のよう楽しかった」とコメントしている。

そのワークショップの可能性を踏まえた上で、大学教育においてワークショップを導入する場合の戦略を検討すれば、全15回の一連の科目の最初と最後の授業でワークショップを行い、学生の興味・関心を高めたり、振り返り・分かち合い

の実を高めたり、90分の講義の中で30分ワークショップの要素を盛り込む、ということも可能であろう。

また、「健康」という実感しやすい内容については、ワークショップの導入が有効であろうし、実感しにくい「環境」については、講義形式が有効である、というように、内容によって手法を使い分けることも必要であろう。

そして、そもそも、ワークショップに学ぶべきは、「参加者の参加の姿勢や理解を促す」という基本的な姿勢と技術であろう。一般的なワークショップでは、冒頭に、タイムテーブルを示す。アイスブレイクも行う。「紙芝居」という手法を用いて、作業の内容を明確にする。色鮮やかなファシリテーショングラフィックで、議論の構造を明確に図示し、共有を図る。こうした技術一つ一つは、少し意識すれば大学の講義（ワークショップではない）にも十分に導入可能である。

大学教員は、提供する内容、対象を十分考慮した上で、提供の方法を選択していく必要があると考えられる。しかし、一番の問題は、大学教員の多くは現時点では、選択できるほど手法の選択肢を持ち合わせていないことである。

さらに、認識しておくべきことは、大学で開発教育を実施する場合には、開発教育が本来の理想として持っている過程を重視する参加型学習と、その中で伝達される内容である専門知識・技能のバランスが問題となる。広く知識を授けるとともに知的、道徳的、応用的能力を展開させる大学の目的の達成の方法としての開発教育とはどのようなものであろうか。

開発教育は、他地域・異文化への理解を通じて自らの社会と他の社会の違いと共通性を知り（知）、人間としての普遍性に気づくことによる思いやりの心を育て（情）、その思いやりを通じて他者と協力し、世界に貢献する行動への促し（意）を導くことをその基本的課題としている（西川 2002）。世界中で広範に見られる開発に参加する能力を奪われた人々の存在を地球規模の不公正ととらえ、その原因が私たちの日常生活の中にあることに気づき、気づいたらその問題の解

決にどうかかわっていけば良いのかを考え行動する態度を養うことが目標となっている。

態度養成を行うに当たって、過程を重視するあまり内容を軽視することは大学教育になじまないし、さらに行動につながる応用能力を正確な知識または情報にもとづいて修得させることが大学教育の目的であり、初等・中等教育及び社会教育において展開される開発教育・参加型学習とは密接な連携が必要であるとともに厳然としたデマケーションが存在すると考えたい。

5-3. 今後に向けて

今後今回立てられた仮説を検定する実験を行なう必要があるが、当面まずできることを提案して本論を結びたい。それは、今回の受講者が、年度内にしたいといったことが実際にどの程度行動に移されたかを何カ月後かに確認するとともに、その時点での知識の定着度の確認を行なうことである。年度内にアンケートを実施して結果についての分析を行なうこととしたい。

付記：本稿は、平成16年度石橋研究助成「国連・持続可能な開発のための教育（ESD）の10年」の大学教育への適用に関する研究の成果の一部である。

<参考文献>

- 大津和子 1995 「地球市民を育てるために」 開発教育推進セミナー編 『新しい開発教育のすすめ方』 古今書院
 開発教育協会 「入会のご案内」
 中野民夫 2001 『ワークショップ』 岩波書店
 西川芳昭 2002 『地域文化開発論』 九州大学出版会
 山西優二 2004 「地域からこれからの開発教育を考える」 『農村文化運動 172号』 農山漁村文化協会
 吉野あかね 2005 「市民参加を実現するワークショップ」 松尾・西川・伊佐編 『市民参加のまちづくり 一戦略編一』 創成社 第5章

資料3. 学生によるふりかえりアンケート原文

(1) 講義形式受講者

講義で記憶に残った内容は何か？	今年度中に具体的に実行したいことはありますか？	講義に関する全体的感想
<ul style="list-style-type: none"> ① 生物保全について ② 環境保全について ③ 生物と環境の関係について 	<ul style="list-style-type: none"> ① バランスの良い食事を心がける ② 一日三食キッチリ食べる 	<p>とても興味のもてる講義で生物と環境との密接な関係についてのところが特に面白かった。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① 食料 体に悪い 健康 内部経済 (対価が支払われる) ② 環境 公益的キノー 外部経済 (対価が支払われない) ③ ご飯一杯=3000-4000粒の米粒=3株の稲=35匹虫 ④ 洪水防止 ⑤ 水資源かん養 		<p>農業に全般的に了解してもらった。健康と体に指導性の講義である。さらに、環境の保全の認識を高めた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① 米何杯分で生き物が何匹生きることができるか。 ② 田んぼがいろいろな汚染や崩壊を防止している。 ③ 食事のみだれ。コンビニ弁当など。 ④ 生き物にとって大切な田んぼ。 ⑤ 田んぼが防止しているのを全額に直すとすごいことになること。 	<ul style="list-style-type: none"> ① メダカを飼育する。 ② 食事のバランスを調整 	<p>実家に田んぼが多くあり、そのところからカメヤフナ、たくさんの生き物と遊んできて田んぼは大切なものであると感じていたのが、今日の講義でもっと田んぼに対する大切さを学んだ。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① 田んぼがもたらす経済効果はものすごく大きいということ ② どのくらい田んぼがあればどのような生物が生きて行けるか。 ③ 食事を疎かにすると将来大変なことになる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 食への関心を高める、疎かにしない ② なるべく自炊する 	<p>ます、プリントの内容が衝撃的で怖かった。コンビニに弁当やおにぎりは、いつでも買えるし添加物も入っているとは知っていても、そこまで気にしなかった。田んぼの経済効果もこんなに大きなものだと知らなかった。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① 最初に読んだ西日本新聞の記事 ② ごはん1杯=オタマジャクシ35匹 ③ 農業の多面的機能 ④ 農業の多面的機能を代替法で金額にした時の額 ⑤ 公共財には対価は支払われない 	<ul style="list-style-type: none"> ① なるべく自炊をする ② 地域で生産された野菜を選び、自分で料理する 	<p>今まで自分が当たり前前に食べてきたコンビニの弁当が、添加物などにより体に悪いと知りこわくなった。また、普段の生活では気付かない農業の一面である農業の多面的機能が本当はとても大切なことだということが勉強できて良かったです。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① コンビニの食物の生活 ② 米に対する生き物 ③ 環境の対価 ④ 対価が支払われない理由 	<ul style="list-style-type: none"> ① 是非地元の米を食べたいと思います ② 今回の内容を皆に広める 	<p>ハッ！としました。日々なにげなく食べている米がココまで意味をなしていたとは思ってもよらなかったです。コンビニの弁当やカルシウムの問題は、これからなお一層努力したいと考えました。食のことだけでなく経済のこともふまえながら話されたのですごく勉強になりました。またお願いします。ありがとうございました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① 田んぼの持つ機能 ② 食を見つめなおす ③ 食物連鎖 	<ul style="list-style-type: none"> ① 自分の食生活を見なおしコンビニ弁当などを食べずに自炊と心がけたい。 	<p>今回の講義で普段我達が食べている食べ物により体に悪影響を及ぼす事、そして今までお米などを買う時は食料と</p>

		してしか見ていなかったけれど、そのお米を作っている農業は環境面で私達にとっても多大な価値のある役割を持っている事がわかった。そしてどれだけ食、農業などが大事か、そして守らなければいけないかわかった。
① 資料プリントの内容 ② 下じきにあった内容 ③ 公共財の価値 ④ 農業の持つ多面的機能 ⑤ 食のみつめなおし方	① 食をみつめなおし、自然を、地球をみつめなおしたい。	自分が今、一番興味のあるポスト工業社会につながる事ができる講義をうけて、とても勉強になりました。何よりも自然はすばらしい。
① 農業というものが、ただ食料を生産するだけの働きではないということ。 ② 農業は自分たちの考えもしないような働きをしていること。 ③ ごはん一杯で、たくさんの生物が生きているという事実。 ④ 環境保全と農業の密接な関係。 ⑤ 現在の農業の厳しい現在（外国産などの安い輸入品など）	① 自分の今までの食事の在り方を見直す。 ② できるだけ、地元で生産されたものを食べる。	私自身、農業というものはただ食料を生産するだけのものだと思ってきましたが、今日の講義を聞いて農業に対する自分の見方が大きく変化しました。
① 豚のエサとしてコンビニ弁当を食べたことによる被害 ② 農業がもたらす環境保全と経済的利得 ③ 財の性質…排除性と競合性	① これまでレトルトや弁当が多かったが実家で作った米を食べる ② 釣りに行った際、川の周辺の生物を見てみたい	今日よく健康ブームだとか耳にするが、これだけ健康ブームの最中、コンビニ弁当の売れ行きが著しく伸びているところに矛盾を感じました。食物にもっと感心を持ち健康面だけでなくそこから何が見えてくるのか、果たしてこの食材はどういった環境を創り出しているのか考えてみたくになりました。大変わかり易く身近な話で貴重な時間でした。
① 農業が環境を守っていること ② コンビニ弁当が体によくない ③ 食と農業のつながり ④ 農業の多面的機能 ⑤ 代替法による、農業の環境保全の役割の大きさ	① コンビニ弁当を食べるのを減らす ② 1日3食食べるようにする	食と農業は食材としてつながっていると思っていたけれど、それだけでなく、環境にも大きな影響を与えていることがわかった。農業をやめるだけで、食材がなくなるだけでなく、環境にも大きな災害をもたらすことになる。農業は私達の生活に大きな役割を果たしていると思った。
① 農業の大切さ ② 農業の役割 ③ ごはん一杯の重要性	① 食生活の見直し。 ② 環境の大切さをもっと詳しく知る。	私は食生活がバラバラで、朝は何も食べません。夕食だけしか食べない時もあり、家でごはんを炊いておかずを作ったりすればちょっとはいいと思うけど、作るのがめんどくさいから、ついコンビニや外食ですませてしまいます。しかし、今日の講義を受けてごはんの一杯の大切さやコンビニ弁当による体の影響を知り、食生活を見直します。
① 農業の裏側に環境がある。 ② 国が代表して中山間地域直接支払制度を用いて農家に援助	① 食生活を見つめ直し、地域の食材を取る ② 家の周りから田んぼが減ったがど	食事をする時は、野菜を多く取ろう。体に良いものを取ろうと考えていたが、農業の裏には環境があると分かった。

<p>③ 体に良いモノだけでなく、環境にも良いモノを ④ 農業多面性→金額では7兆円近くと試算</p>	<p>んな影響が出たかふり返る</p>	<p>出来るだけ地域の農産物を取るよう努めたい。</p>
<p>① 農業に環境要因が大きく関わっていること ② 農業の環境に暴大な経済効果が関わっている事 ③ 有機農産物の正しい定義 ④ ご飯一杯に関わる生物の数 ⑤ 食と人間の関り</p>	<p>① 食品表示を注視して、解らない言葉を理解し、より健康な体を作りたいと思った。 ② 農業にもっと目を向け、理解する事 ③ 外国産の有機農産物と、国産のそれを比べて、環境の他に何が違うのか知りたいと思った。</p>	<p>私は、母が料理上手で、幼い頃からバランスの良い食事を摂取している。それなので、栄養の片寄っている友人をみて可哀想に思う事もしばしばある。だが、食となると、いつも栄養面だけで、環境と農業の関係など、今まで考えた事があったか分からない。今日の授業では、自分に今まで無かった知識が植え付けられてとても面白かった。ありがとうございました。</p>
<p>① ご飯一杯とおたまじゃくし35匹がイコール関係だったこと ② 農業にある外部経済が6兆円以上あったこと ③ 農業の外部経済の中身が洪水防止や土壌流出防止など様々な内容があったこと</p>	<p>① 栄養バランスがきちんととれる食事を作りたいと思う。 ② コンビニ弁当の摂り過ぎの危さ</p>	<p>食事に関しては、ただ「最近野菜摂ってないなあ」としか考えなくて健康(身体)に及ぼされる影響まで考えていなかった。食事の栄養配分、加工食品の摂りすぎには気をつけようと思った。農業の外部経済を知って自分達は農業をしている人々に大変お世話になっているんだと思った。</p>
<p>① 食事の人体に対する影響 ② 農業は食料を生産するというだけではない ③ 農業は我々の生活を食以外の部分でも豊かにしてくれていた ④ 農業の外部経済による経済価値 ⑤ 環境の小さな変化で生態系が大きな影響を受ける事がある</p>	<p>① 自分の食生活にもっと興味をもち見つけ直す ② 自分達のためにも、我々の生活を豊かにしてくれている地元の農作物を選択しよう</p>	<p>食料を生産する、それが農業だと思っていたし、あまりにも身近な事だったので、興味を持つ事もあまりありませんでした。農業というものを今までと違った視点で見つめ直すことができ、非常に新鮮でした。食材を選ぶ際、またこの講義を思い出したいと思います。</p>
<p>① 農業の多面的機能のことで、こんなに環境に関係しているとは思わなかった。 ② 農業のおこない方により、生態系が崩れてきているという事 ③ 新聞にあったコンビニ弁当の豚におよぼした影響の事</p>	<p>① コンビニのおにぎりなど最近よく食べているので、大量に使われている添加物のことを思い出し出来るだけひかえるようにしたい ② 農業と環境とのつながりを自分で調べてみたい</p>	<p>私は、とても農業に興味があり、おじは専業農家をやっています。また私は、ゼミで環境分野のことを学んでいます。この2つのつながりを今回の講義で、知ることができました。私は、農業に関わったことを将来的に行いたいと思っているので今回の授業のことも、十分にふまえていきたいと思いました。農業は環境を改善させるということが自分の中に強く残りました。このことは農業の低迷を改善させるきっかけになるのではないかと、私は考えました。</p>
<p>① 農業がいろいろな面で環境を守っていること ② ただ有機農産物だからいいというわけではないこと ③ 環境を生かすも殺すも現段階では人間しだいというこ ④ 農家の人はすごいんだぞということ ⑤ 人と虫、動物は共存してこそ環境を守っていると言えること</p>	<p>① いち消費者として買い物等の行動を改めてと思う ② 実家が農家なのでもっとうやまおうと思った</p>	<p>環境を守ることが農業を営むことで守られていると知り、とても驚きました。農業をすることが多面的機能を生んでいるので、農業はこれからも守っていかなくやなと思いました。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ① コンビニ弁当についての新聞 ② 田んぼがあることでずいぶん風が吹いて生活しやすいこと ③ したじき!! いっぱいのお米がとれる分にあんなにたくさんのおたまじゃくしがいるなんて! ④ 豚肉がすっごく大好きです。でもとりすぎたらカルシウムがなくなっていくなんて。 	<ul style="list-style-type: none"> ① コンビニで買わないようにおにぎりをつくったりもってきます。 ② お母さんに料理をならって、栄養について知識をつけるぞ! 	<p>私は実家に住んでいます。昔から母が冷凍食品などが嫌いだったためか、手料理が多かったです。ジュースやスナック菓子などもあまりたべさせてもらえず、子供ながらにとてもかなしい思いをしたことを覚えています。でも、今思えば健康な身体で育つように母がしっかり考えてくれていたのだなあと思うと、とてもうれしく思います。大学生になり外食やコンビニのパン・おにぎりなどが多くなって食生活が乱れることが多くなりましたが、これからは自分の健康は自分で管理しようと思いました。ありがとうございました!!</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① 食料の大切さ ② 今の食生活の現状 ③ 食料を作るための虫たちの働き ④ 食料と環境がつながっていること ⑤ 水不足と田んぼ 	<ul style="list-style-type: none"> ① 食事にもっと気を配っていこうと思う。コンビニ弁当ばかりでなく、自分で作って食べるようにする。野菜を多く取る。 ② 田んぼの完成した姿を見に行きたいと思う。浮羽に行けたら行く。 ③ 20年後を考えてカルシウムを摂取し、多く身体にためておく。 	<p>高校の時にも食事に関する学習は行ったことはあったが、また別の意味で勉強になった。食事にたいしての考え方を変えていこうと思った。ただ食べるだけでなく、栄養やバランスのとれた食事を心がけたい。一人暮らしなので特に気を付けていきたい。今だけを考えるのではなく、10年後20年後を考えて食事をしていこうと思う。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① 養豚農家の事件 ② ご飯一杯と生物の関係 ③ 農業の多目的機能 	<ul style="list-style-type: none"> ① 食生活の乱れを少しでも改善したい。 ② 食べ物の産地に注意して買い物をしたい。 	<p>貴重なお話ありがとうございました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① 農業は見えないところで日本経済の役、人の役に立っていること ② 養豚農家で仔豚たちが死んでいった話 	<ul style="list-style-type: none"> ① 最近コンビニ弁当ばかり食べるから、料理を作る。 ② 野菜をたくさんとる。 	<p>今日の講義を聞いてみて今までにも少しは耳にしたことのあることなどがたくさんできてより違った視点から話を聞くことができた。食のありがたさ、農業のありがたさ、今の今まで大した関心のなかったものですが、こんな授業を受けてみるのもいいかな、と思いました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① 養豚農場の新聞記事 ② 農業が環境を支えている ③ 田んぼがなくなったからトキが絶滅した ④ ドジョウが絶滅危惧種 ⑤ 気候緩和 	<ul style="list-style-type: none"> ① ご飯を自炊するようにする ② 三食食べる 	<p>豚の記事を見て驚きました。人間の子でも今、奇形児がとても多いという話は聞いたことがあって知っていたけれど、豚にも影響が出ることがわかって、食べ物には本当に気をつけないといけないと思った。農業が自然を強い関りをもっていることがわかったので、少しはかたくとも国産の野菜を買って、日本から農業をなくさないようにしないといけないなと思った。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① 豚体実験 ② 田んぼは地域の気候を和らげる ③ 骨密度は男女ともに二十代半ばにピークに達し、以後減少 ④ コンビニ弁当ばかり食べたら身体に悪い ⑤ 食は自己責任 	<ul style="list-style-type: none"> ① 商品に張られたラベル（内容表示）を見て危険なものは避ける。 ② カルシウムをとる ③ 栄養バランスを考える 	<p>一人暮らしをするようになって、これまでカゼをひかなかったのに、よくカゼを引くようになったには、やはり食生活に問題があるのではないかと考えさせられた。自分の体のことなのだから、これからは食生活と見直していこうと思う。</p>

<p>① 田んぼの水がなくなるだけで地域の気候が変わる。 ② コンビニの弁当はこわい</p>	<p>① 食生活の改善</p>	<p>ごはん一杯が稲3束と聞いたら、実感が湧いて農家の人への感謝の気持ちを感じた。</p>
<p>① 農業の外部経済がたくさんあること ② 有機農産物の外国産、日本産の比較</p>	<p>① 食生活を考えコンビニばかりの食生活から自炊の努力をする。 ② 米を買う時に生産地等にも目を通したい。</p>	<p>農業には多面的機能はあることは昔から聞いたことがあったが、外部経済がこんなにもたくさんあったことに驚いた。今日の題目である「食をみつめなおす」ということが自分自身できたように思う。これからは空腹を満たすためだけの食でなく、外部経済も含め、さまざまな見方ができるようになりました。</p>
<p>① 農業の中に環境を保つための様々な機能があることにおどろいた。 ② 自分達が普段、何となく食べている食事でたくさんの生き物が生きていること ③ 農業が環境に及ぼす機能が別の方法にするととてもお金がかかること</p>	<p>① 食生活のバランスを見直して、10年後20年後の自分の体のことを考えた食事をとろうと思います。</p>	<p>今は、コンビニのお弁当や外食ばかりしていても体に何の変化も無いので深く考えた事がなかったけど、将来の自分の体の事を考えて、食生活を見直そうと思った。普段何も考えずに食べている物が生産される時に環境や他の生物の存在にいろんな影響を与えていることがわかって、もっと食のことにについてしておかないといけないと思いました。</p>
<p>① 田の稲3株分にオタマジャクシが35匹いること ② トキの絶滅の危機と田と水路のレベルの差が関係していたこと ③ コンビニ弁当が豚に与えた影響 ④ ご飯一杯の先に何はあるかという事 ⑤ 気づかないうちの食生活の乱れ</p>	<p>① すぐに栄養を考えた食事に戻したい。 ② なるべくコンビニ弁当をさげたい。 ③ ただ食べるだけでなく、ごはん一杯の先をたまには考えてみたい。</p>	<p>今日まで全く「食」に関して考えたことはなかったが栄養のことや生物との関連性など非常に興味深い話が聞け、無知であることは危険なことだと感じた。</p>
<p>① 農業の多面性機能 ② ごはん1杯分のとれる田で生きられる虫の数 ③ 最初に配られた新聞記事の内容「豚体実験はもうこりごりだ」</p>	<p>① 野菜をつくり、出荷されるまでの手順を学びたい</p>	<p>「食をみつめ直す」というタイトルから私が最初にイメージしたのは、「コンビニ弁当や外食ばかりしていると、将来このようになってしまいますよ」などといった、私達の食生活の話だと思っていました。しかし、今日農業の多面的機能の説明をうけて、農業をもっと重んじなければならないと感じました。そして小さいころから農業の大切さを学べるような機会をもっと増やすべきだと思いました。</p>
<p>① 豚をつくっているのになぜ、コンビニの弁当をエサにしたのか？ ② 有機農作物の意味 ③ 環境についてやる処理の仕方</p>	<p>① できればコンビニではなく、家でつくって食べる。 ② なるべく農薬を使用していないものを選ぶ。</p>	<p>今回有機農作物の意味というのをはじめて知りました。ただ「無農薬」という意味でつくっているのかと思っていたら3年以上という長い期間育てられた畑・田のみがつけられることで初めて知りました。</p>
<p>① 内部経済（対価が支払われる） ② 外部経済（対価が支払われない） ③ 農業と環境の関係 ④ 排除性と競合性 ⑤ 洪水防止</p>		<p>今日の講義は全体的にいい講義だと思います。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ① 田んぼの先にトキがいる ② 田んぼのもつ機能 ③ 農業の重要性 ④ 環境の係わり ⑤ 豚体実験 	<ul style="list-style-type: none"> ① ご飯をできるだけ3食食べる。 ② あまりコンビニやファーストフードのものを食べない。 	<p>話を聞いていて楽しかった。時間がすごく早く過ぎた気がした。田んぼの持つ重要性や田んぼでの生物のことなど、あまり知らないことからしていることまでいろいろ聞いたのがよかったです。田んぼがなければ暑くなったり、生物が生活できなくなったりするから、農業も大切なことなんだとあらためてふり返ることができました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① 田んぼの先に人がある。 ② 二十年後、あなたの夕食は。 ③ 水不足と田んぼ ④ ヒートアイランドと田んぼ ⑤ 茶碗と虫（下敷き） 	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域のことをかんがえて、地域でとれたものを食べよ思う。 	<p>講師の先生は田んぼが本当に大好きなんだなと思った。後、田んぼだけだと思っていたら、田んぼの先には、我々人間が関係してくるということでおどろいた。うちも田んぼをつくっているけど、ただ土地があるからつくっているといったかんじがあるけど、これからは地域のことまで考えてつくっていこうと思う。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① 田んぼに洪水防止機能やその他外部経済性をもっていたこと ② 有機農産物の提議 ③ 水不足との関連 ④ 財の性質について 	<ul style="list-style-type: none"> ① もっと地域の農業や環境について学ぶ。 	<p>今までは、ただ自分達の健康のことを考えて有機農産物を使う方がいいんだとが、そういう食料としての部分しか考えていませんでした。しかし、田んぼがあることで人や自然に多大な影響をもたらしていることを知り、環境の面からも田畑を残していく必要があると感じました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① 期限切れのコンビニ弁当やおにぎりを食べた豚が被害にあったこと。 ② 呆食をしていると骨粗しょう症になりやすくなる。 ③ ごはん一杯分の米を作る広さにどれだけの生き物がいるかということ。 ④ 農業は環境が大事 	<ul style="list-style-type: none"> ① 自分の体の為に食事に気をつける。 	<p>食料を作るには対価が支払われない外部経済である環境が大切だとわかった。「食」は対価だけで表すものではないと思った。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① コンビニおにぎりで豚の体に異常があらわれるということ ② 学生の二十年後の食卓は病院のベッドの上かもしれないということ ③ 内部経済、外部経済の内容を詳しく聞いたこと ④ ドジョウは絶滅が心配されているということ 		<p>私たち人間の食生活は著しく変化してきて現代では様々な食料が卓上に並んでいるが、その「食」によって環境にも影響が及んでいて、生きものの保全なども考えなくてはいけないような時代になっている。環境に影響が出てきているというが、実際自分たち人間にも被害が及んでいるということが心配だ。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① コンビニ弁当が影響で豚が死産した事 ② 20年後の食卓がビタミン剤とサプリメントになるという考え ③ 農家が環境に与える影響 ④ 時の絶滅と農業の関係 ⑤ 農業が環境に与える影響の代替財の値段 	<ul style="list-style-type: none"> ① コンビニで弁当を買う時にラベルをよくみる ② 「食」について考える 	<p>講義を受けて自分が「食」というものについて、あまりに無知で、またそれについて良く考えた事がないことを実感しました。これからはただ食するのではなく、この「食」の先にあるたくさんさんの事にも目を向けていかなければならないと思いました。</p>

(2) 参加型ワークショップ受講者

<ul style="list-style-type: none"> ① 食は大切! ② 自然を守ろう! ③ 生き物を守ろう! ④ 健康を維持するたにいっぱい食べよう! ⑤ バランスのいい食事をしよう! 	<ul style="list-style-type: none"> ① 環境汚染について 	<p>マグネットを使った講義でテンポよくわかりやすくてよかった。また、ぜひ佐藤先生に講義してもらいたい。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① 食べ物の話 ② 自らの話 ③ 環境を守る話 	<ul style="list-style-type: none"> ① もう少しバランスの取れた食事を心がける。 ② 自炊はできるんで、また食事を自炊に戻す。 	<p>一口で食といっても色々あることがわかった。身体に関してはもちろん食が環境に与えることなど今まで考えていなかった。また、話を聞くとバランスが悪い食事をしていたので注意したい。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① 食の大切さ ② なぜ食べるのか? ③ 人の食べたもの 	<ul style="list-style-type: none"> ① 日三食をとる ② 栄養バランスを考える ③ おにぎりには気をつける 	<p>ただ話を聞くだけではなくて、他の人と話す場や発表する場がたくさんあっておもしろかった。五穀米が食べたくなった。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① 食の重要さ (生物を守る) ② 6兆9000億という金額 ③ 農業によって災害などから守られている ④ 自分の食生活の悪さ ⑤ 下敷きの内容 	<ul style="list-style-type: none"> ① 食生活の改善 (バランスよく) ② 食事を残すことをしない 	<p>普段何気ない「食べる」という行為だからこそ気づかない部分があった。このような身近な所からの改善の努力というものが大事だということが分かった。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① 骨スカスカ ② 現在の大学生の一部の食生活が不安定 ③ オカズ (下敷き) 	<ul style="list-style-type: none"> ① 自給自足! 	<p>先生の話がおもしろかった。学生への接し方が意外に上手? だと思った。「食」に関するコトをより詳しく学べてよかったです。農業や国内有機農産物が6兆9000億円/年もの価値を生み出しているとは思いませんでした!</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① 食の切さがよくわかった。 ② バランスよく食べること。 ③ 自分の食生活はかなりかたよっていたこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 三食しっかり食べる ② カップラーメンやコンビニ弁当を減らす。 ③ 野菜をもっと食べる。 	<p>最近夕食にカップラーメンや弁当を食べることが多く、ちゃんと考え直したいと思いました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① 食の大切さ ② 農業の多面的機能 ③ 経済効果 	<ul style="list-style-type: none"> ① 自炊する ② コンビニで食べ物を買うのをへらす 	<p>生徒とコミュニケーションをとりながらの授業で楽しかったです。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① 食の大切さ ② 農業の多面的機能 ③ 農業の経済効果 ④ 下敷き 	<ul style="list-style-type: none"> ① コンビニばかりの食生活を直す ② 一日三食摂る ③ バランスを考える 	<p>退屈する事なく受けれました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① なぜ食が大切か ② 食と日本農業の関係 ③ 外国産有機農産物ばかり輸入していいのですか? ④ 農業がないと自然に危害がある。 ⑤ 農業と人間と自然の関係 	<ul style="list-style-type: none"> ① バランスよく一日三食ちゃんと食べる ② 農業を大事にすること 	<p>今回の講義を聞いた、食生活が大切なことがわかりました。農業の役立ただけながら食べるじゃなくて自然を守る役立もあります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① 食の大切さ ② 農業の大切さ ③ 農業の深さ 	<ul style="list-style-type: none"> ① 浮羽に行ってみよう (近いから) ② ちゃんとした食生活と送る。 	<p>いつもは眠くなるのに今日みたいな講義は眠くならなくてすごくわかりやすく先生の熱意が伝わってきました。</p>

<p>④ 外食 有機農産物より日本産がイイ ⑤ 先生のアットホームさ</p>		<p>またこの講義を受けてみたいです。</p>
<p>① 6兆9000億円 ② 健康に生きるため食が必要 ③ 環境を守ること ④ ただ食べるだけではいけないこと。</p>	<p>① ちゃんとラベルを見て買い物をする。 ② 栄養バランスを考えて食事をする。 ③ 自分の体の何十年後のことも考えてみる。</p>	<p>いつもただ何も考えずに食べていた食事についてあらためて考えさせられました。そして食の先にあるものは重要なことなのだなあと思った。</p>
<p>① 食が日本の農業を支えていること ② 日本の農業が活性化することで、自然災害が防げるということ ③ コンビニ弁当を食べた豚は子供が奇形になること</p>	<p>① 普段もたまたま農作物は買っているけれど、更にも買ってみようと思う ② 有機農産物を買う（しかも国産！）</p>	<p>特別講師の先生がとても話がうまくて授業を受けていて気持ちよかったです。</p>
<p>① 先生の名前がめずらしかったこと ② 先生が30歳だったこと ③ 先生が結婚していたこと ④ 偏った食事をしていたら骨がスカスカになること ⑤ 農業は食べ物育てる他に、田んぼが色々な役割をしていたこと</p>	<p>① 一日三食は必ず食べるようにしたい ② 中食になりがちで栄養が偏りがちだったかもしれないので、しっかり野菜も食べたい ③ 食べる時間をちゃんと取る</p>	<p>先生の話し方がわかりやすかった。資料がおもしろかった。早かった。よかった。</p>
<p>① なぜ食が大事か ② 自分の健康のためのほかにあと環境を守ることである ③ 外国産の野菜と国産野菜どっちがいい？ ④ ③の原因 ⑤ 一日三食食べる重要性</p>	<p>① 三食ちゃんと食べること ② 野菜をいっぱい食べること ③ 環境を守ること</p>	<p>おもしろかったです先生もすばらしい！</p>
<p>① 食生活がいかに大事か ② 田んぼなどが自然や生物、私達の生活を守っていること ③ 外国の農産物にたよってばかりではダメだということ</p>	<p>① 現在、一人暮らしで外食やコンビニですませることが多く、野菜も不足しているので食生活を改善したい</p>	<p>講師の先生の熱意が感じられるよい授業だったと思う。</p>
<p>① 下敷きがとても深い意味を持っていたこと ② 食が環境につながっていること ③ 食物で将来が変わるかもしれない危険性のこと ④ 先生が30歳だったこと</p>	<p>① なるべく野菜を取ろうと思う ② なるべくインスタント食品は控えようと思う ③ 規則正しくとろうと思う</p>	<p>今日の講義で、食に対する自分の考え方が変わりました。今は若い頃インスタント食品をとっても大丈夫だと思っていましたが、将来を考えたらそんな過剰な考え方はやめようと思いました。これからは食生活に気をつけて、また野菜をもっととろうと思いました。</p>
<p>① プリントの豚の話は怖かったです。コンビニ弁当っておそろしいと思いました。 ② カルシウムを今のうちにたくさん取っておこうと思いました。 ③ 下敷きがおもしろかったです。食べることは環境を守ることにもつながることを知りました。</p>	<p>① 一人暮らしなんですけど、今は自炊をあまりしていないので自炊メインになるような食生活をしたいです。 ② 間食をなくしたいです。</p>	<p>あらためて食の大切さを考えなおすことができてよかったです。このような話は何度か聞いたことがあって、その度に食生活を改善しようと思うのですが、なかなかできません。今度こそ頑張ります。</p>
<p>① 食における環境保護（動物保護） ② 食の大事さ（自分では日頃思わないことについて）</p>	<p>① プリントを見て野菜をもっと多く摂取すること</p>	

<ul style="list-style-type: none"> ③ 先生が30歳で既婚であること ④ また食で環境を守ることに對して7つの項目で1年間に6兆9000億円も経費が多いこと ⑤ 「食」が日本經濟にあたる影響 		
<ul style="list-style-type: none"> ① コンビニ弁当の生活で将来が大変なことになるということ ② 国産のものを食べた方がいい理由(知らなかったから) 	<ul style="list-style-type: none"> ① 一日三食(きちんと)。 ② コンビニで、できあいのものは避けたい。 	<p>なぜ国産のものがいいのか、初めて知りました。それまでは自分たちの体・健康のためだろうと何となく思っていたけどそうではなくて環境のためということを知って、本当に驚きました。しかもその機能が多面的であることから「食」がどれだけ重要かがわかりました。おもしろい講義でした。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① “食を見つめなおしシート”を書いて自宅が少なかった。 ② 日本の農家・農業の大切さを初めて身近に実感できた。 ③ 黒板に書かれた図。やはり、自分の存在はどこかにつながっている。 ④ 農業から環境。その經濟的評価金額6兆9000億円(これだけ日本は助かっている) ⑤ 外国産と国産の話 	<ul style="list-style-type: none"> ① コンビニなど外食、中食を減らすこと ② 国産の食材を選ぶ(ラベルをチェック) 	<p>あっという間に時間が過ぎました。“食”という1つの私たちの生活行動を広げると、今回、学んだようなことにまで広がることに一番驚きを持ちました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① 食は大事ということ ② 環境を守るためにはお金がかかるということ ③ 外国産より日本産の有機農産物のほうがよい 	<ul style="list-style-type: none"> ① コンビニの回数を減らす ② なるべく毎日自炊する ③ 骨を強くする 	<p>やっぱり食とバランスは深く関係しているのだと思いました。たくさん食べるだけでなく、バランス(栄養)を考えて自分の体に合った食事をとることが大事だと感じました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① 大学の講義で初めてグループを作ったこと ② 食が大事な理由の説明 ③ 田んぼで育つ生き物がわかったこと 	<ul style="list-style-type: none"> ① 今後、食生活を一日三食にもどすこと ② 便利だからといってコンビニばかりの食べ物を買わないこと ③ 国産品を買う 	<p>今まで自分が知らないことがたくさんあることがわかった講義だった。食生活が大切だと分かった。楽しくて早く終わったのでよかった。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① 食が大事な原因 ② 一日三食は何ですか? ③ 環境を守ること ④ 有機農産物 	<ul style="list-style-type: none"> ① 一日三食ちゃんと食べる ② 日本の有機農産物を使うように ③ 環境を守る 	<p>これから自分が楽しく生きるため、一日の食をきちんとたべるように。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① 「食」人だけでなく環境を守る。 ② 「食」は日本經濟に影響を与える。 ③ 「食」を見つめ直さなければ私たちの未来がなくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 偏った食事を改め、きちんとバランスのとれた食生活に変えたい。 	<p>自分の「食」を見つめ直すいい機会だった。食事の大切さを思い知らされた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① ごうし。 ② 田んぼの大切さ ③ 皆の意見 勉強と働くために食べる意見は自分も見習いたいと思った。 ④ 自分のアンバランスな食生活を見直されたこと。 ⑤ 国内産がなぜいいのか。それはわが国を守るためでもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 朝、昼、晩食べる。 ② バランスの取れた食生活。料理を覚えねば… ③ 毎日牛乳を飲む。 	<p>いつもとは違った講義内容でたいへんおもしろかったです。先生もいい意味で変わった先生でおもしろい話で、それでいてきちんと真面目に考えさせられました。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ① 日本の農業で生き物も関係しているということ。 ② 他のグループのメンバーの食生活があまり良くなかったこと。 ③ 日本の農業は6兆9000億円もの価値があるということ。 ④ 資料での豚のコンビニ弁当の話。 ⑤ 外国産有機農産物が日本の農業を減らしているということ。 	<ul style="list-style-type: none"> ① なるべく自宅で自炊の食事をする。 ② 国産か外国産かを買い物の時にチェックする。 ③ 体に良いものをなるべく食べる。 	<p>私は今の食生活がここまで大きく自然と関わり合っているとは、思ってもいませんでした。食生活、自然の生き物について考える良い機会になりました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① 日本の食が環境につながっていること ② コンビニ弁当には体に悪い物が沢山含まれていた点 ③ バランスよい食事をとらないと自分の将来がおびやかされること 	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日三食食事をとって、また食べ物（健康）に気をつけながら食べる 	<p>自分の食事についてはかなりバランスの悪い食事が多いなと思っていただけ、新聞の記事を読んで怖くなった。食事がいかに大切か教えてもらい、色々なことを考えさせられた。また、環境と食がとても重要に関係しているのを知り、食の大事さを改めて感じた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① 学生の食生活の乱れ（食事をしない） ② 農業の多面的機能 ③ 国内農業活性化の重要性 	<ul style="list-style-type: none"> ① 一日三食を食べる。 ② 野菜ジュースに頼らない野菜の摂取 	<p>グループで話し合うようなことは苦手なので、少しやりにくかったが、内容は楽しかった。多面的機能の話について、もっと詳しく話を聞きたかった。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① 土や水などは全部農業に支えられていること ② バランスの良い食事をするのが大切だということ ③ 食事をとることの大切さ ④ 普段考えたことのない、自分の食生活をみつめなおせたきっかけになったこと 	<ul style="list-style-type: none"> ① 1人暮らしなので食事の回数がバラバラだったけど、できるだけ3食とるようにしたい。 ② お菓子の食べ過ぎに注意する。 ③ できるだけ自炊をする。 	<p>「食」というのはかの授業では習わないことを習って、みんなで話し合っても楽しい授業でした。食べるのが大好きなので今日の授業を参考にしてこれからはバランスよく食べるようにしたいです。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① 普段ほとんどやることのない、自分の「食」について改めて考えたこと。 ② 食は日本の農業を守ることにするという点。 ③ ごはん1杯で色々な生き物が生きていているということ。 ④ 食は人間の体だけではなく、地球の環境も守ることになるということ。 	<ul style="list-style-type: none"> ① プリントを見て自分の食生活において、なるべく野菜を多く取るようにしたいと思った。 ② 間食をなるべくとらないようにしたいと思った。 ③ 食べ過ぎに注意してラベルをよく見ようと思った。 	<p>自分の食についてあらためて考えることが出来て「食」というのは自分の体だけでなく、周りの環境をも左右してしまう重要な役割を持っているんだなあ実感することが出来てよかった。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① 日本の農業が6兆9000億円／年もした点。 ② 農業を行うことでさまざまな好影響がでること。 ③ 米を作らないことは、田んぼの生物を殺すのと同じだということ ④ 毎日の食生活によって、健康状態が大きく左右されること。 	<ul style="list-style-type: none"> ① きちんと三食食べる。 ② ご飯をしっかり食べて間食は少なめにする。 	<p>中学や高校の時の授業みたいで楽しくできた。先生の話聞くだけでなく、自分でいろいろ考えることができて、充実した時間を過ごせたと思う。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① 食をみつめなおしシートでみんなのコンビニなどの利用率が高くて驚いた。 ② 農業の視点から見ると食というのは自然災害防止・自然保護とも深 	<ul style="list-style-type: none"> ① できるだけお弁当を持ってくる。 ② お米を食べる。 ③ 体によいものを食べる。 	<p>おもしろいスタイルの講義だと思いました。普段自分が何を食べているか、思い出してみる機会はないのでよかったと思います。農業という視点から食を考えるというのもおもしろ</p>

<p>くつながっていること。</p> <p>③ 下敷きからごはん1杯分でおたまじゃくしが35匹育つというのは驚いた。</p> <p>④ 日本の農業には6兆9000億円／年もの価値があること。</p> <p>⑤ 自分の食生活を見直すという身近なことから講義は始まったのがいいと思った。</p>		<p>いと感じました。ありがとうございました。</p>
<p>① グループになかで11月17日の夕食が全て同じの人がいたこと</p> <p>② 豚の悲劇と豚のデリケートさ</p> <p>③ 日本の国内での農業の重要性</p>	<p>① なるべく自炊して野菜を多く摂取する</p> <p>② カルシウムを取りすぎるくらいに取る 牛乳を飲みまくる</p> <p>③ 自然を大切にする ポイ捨てを許さない</p>	<p>時間がすぐ過ぎていった。自然とかそういうことは小さい頃から大好きなので、そういった話が聞けて、良かったと思う。疑問におもったのが、山や木があることで貯水はできていると思っていたけど、田畑も重要な要素になっている。なら、山の木を切り開いてつくる牧場とかは自然環境的に見てどうなのでしょう。</p>